

## 平成 28 年度 第 2 回学校協議会

平成 28 年度学校評議委員

氏名	所属・職名	備考
相川 真佐夫	京都外国語大学教授	会長
北堂 薫	高槻市立第二中学校長	
清水 信行	千里金蘭大学入学センター顧問	
林田 健治	(株)ベネッセコーポレーション高校事業部 大阪府担当	
田上 妙子	芥川高等学校後援会副会長	
金丸 里次子	芥川高等学校 PTA 会長	

開催日：平成 28 年 11 月 2 日（水）13:20～15:00

出席者：相川委員、北堂委員、清水委員、林田委員、金丸委員

1. 校長より挨拶
2. 委属状授与 1 名（相川委員）：前回欠席のため
3. 委員、事務局の自己紹介
4. 資料の確認
5. 協議（報告）
  - (1) 学校の様子（首席より）

学校新聞芥川より。228～231号までの説明。
  - (2) 平成 28 年度学校教育自己診断について（首席より）

12 月中旬～下旬に実施予定。

教頭：授業についての質問は「授業はわかりやすい」から「授業に満足している」と変更した。

校長：主権者教育についての質問項目に追加した。

委員：異文化理解という表現は他にないのか。福祉ボランティアという言い方もわかりにくいのではないか。

委員：アンケートの結果は生徒・保護者にどのようにフィードバックしているのか。

首席：ホームページに結果をアップしている。

委員：中学校も項目数は大体同じ。保護者の回収率は約 9 割。

委員：「わからない」という選択肢を設けた方が回収率は上がるのではないか。
  - (3) 学校経営計画進捗状況について（校長より）

「平成 28 年度学校経営計画」主要指標についての進捗状況報告

    - ① 学力の向上
      - ・ICT を活用した授業改善の推進の為、短焦点プロジェクター 2 台購入した。

- ・11月を「授業力向上月間」として、教員相互の授業観察を推奨するとともに、初任者3名による研究授業および研究協議を11月17日に実施予定。近隣の中学の校長先生にもご参加いただき、指導助言をしてもらう予定。
- ・1月に2年生を対象に高槻市選挙管理委員会と連携し政治的教養に関する学習を実施予定。

## ② 希望進路の実現

- ・1年生が夏季休業中のオープンキャンパス参加を課題とした。
- ・指定校推薦等推薦内定者数（大学・短大進学希望者数に占める割合）昨年度より減少した。

## ② 使える英語力と国際感覚の育成

- ・グローバル専門コースにおいては京都外国語大学と連携している。7月に大学見学と11月に大学から出張講義を実施していただいた。
- ・英検合格者数は昨年度より増加した。
- ・9月にオーストラリアミラニ高校との交流を行い、ホームステイ受け入れ・学校生活体験を実施した。

## ③ 体験学習の充実、学校行事・部活動の振興

- ・新入生入部率が向上《87.3%→89.2%》した。
- ・和太鼓部が全国大会に出場、またアメリカ公演も行った。女子バレーボール部は近畿大会に出場した。
- ・高槻市立第九中学校との交流として、6月に部活動交流、11月に和太鼓部・ダンス部公演を実施予定。
- ・10月の文化祭で3年生全クラスがステージ発表、中学生の来場者数が増加した。

## ④ 規範意識の醸成

- ・遅刻指導対象条件を追加（日常生活習慣の振り返りと改善が目的）し、よりきめ細かい指導を図っている。
- ・自転車交通マナー指導。春と秋に全教員による交通安全指導を実施した。

## ⑤ 人権意識の向上

- ・1年生を対象に本校制作DVDによるSNS利用や言葉の使い方に関する学習を実施した。
- ・10月にLGBTに関する1年生向け人権研修を実施した。
- ・5月に自閉症スペクトラム障害と障害者差別解消法について、7月にヘイトスピーチ等についての職員研修を実施した。

## ⑥ 教員力の向上

- ・教育庁「育成支援チーム事業」を活用しミドルリーダー候補育成研修を実施中。
- ・10月に次世代教員自主研修「進路ソムリエ講座」（先輩教員による進路指導のノウハウ伝承）を実施した。

⑦ 情報発信力の向上

- ・メールマガジン登録者数は 900 件以上に増加、今年度に 40 号を配信した。
- ・学校新聞「芥川」を今年度に 9 号発行した。
- ・10 月に修学旅行速報ブログで学校情報をタイムリーに発信した。

首席：遅刻指導に一昨年から力を入れており、効果が上がっている。2 週間単位で指導対象者を抽出し、保護者を巻き込んだ指導を行っている。遅刻する場合は、必ず保護者連絡を求めている。保護者から連絡があれば、指導対象外にしていたが、今年度から連絡があっても 1 か月に 3 回の遅刻で指導の対象にする。11 月から 3 年生が先行実施しており、1・2 年生は 3 学期から導入予定。

進路部長：進路指導について、第一志望は譲らないように指導している。今年も、指定校推薦に頼らず、第一志望を目指している生徒が多い。専門学校希望者の大半が看護医療系希望者。看護専門学校は指定校推薦枠は少ないので公募制推薦か一般入試を目指している。就職志望は去年の半数だが、6 名全員が内定をもらっている。模試の受験者が減っているが、早い時期から学習塾等に入っている生徒が多く、模試を塾で受けている生徒が多いのではないかと。

委員：芥川の生徒は第一志望にこだわっているのは学力診断テストからもよくわかる。

ICT について、短焦点プロジェクターを 2 台導入したとのことだが、活用状況はどうか。

教頭：3 台あるが常に誰かに使用されているようだ。

委員：プロジェクターを利用した授業への生徒の食いつきはどうか。

事務局：保健の授業でも利用しているが、生徒の反応はよく、慣れたようだ。

事務局：映像やアニメーション等、今までできなかったことができるので生徒も興味をもっている。

委員：学校として力を入れていることは

教頭：グループワークを取り入れた授業も増えている。「社会と情報」は早くからアクティブラーニングを取り入れており、生徒のプレゼンテーションは見事なものも多い。

委員：どのような成果があがっているか。

教頭：プレゼンテーションの経験は希望進路実現への力になっていると思う。

進路部長：生徒は実感しているかどうかはわからないが、面接等でも役に立っていると思う。

委員：目に見えた成果があれば、生徒も教員も努力できる。

委員：ものを考える力、論理的に考える力は伸ばせるかもしれない。大学でもアクティブラーニングに取り組んでいるが継続すると慣れてきて話せるようになってくる。

生徒の話す内容を高める教員の指導が難しいところ。

教頭：前任校では生徒にグループを組ませるのに一苦労だったが、本校ではスムーズに組めるようだ。

委員：アクティブラーニングという言葉が先走っているが、乗り気でない教員も存在する。学校として生徒に着けさせたい力をどう着けていくのか、部活動、学校行事ではどう着けていくのか。年間計画の中で具体的に各教科ではどうするのかという部分を考え、指導に生かす。アクティブラーニングが目的でなく、方法として取り入れていけばよい。

委員：たとえば、CAN DO リストを用いる。何ができるようになったのか。外国語教育ではよく行われている。

委員：目標設定をして、それができたかの評価をしなければならない。定期考査でしか測れないならば、モチベーション向上につながらない。

教頭：情報科では評価の観点を示したルーブリックを用いている。

委員：それは素晴らしい。

委員：奨学金は進路が担当しており、今年予約者が 149 名との報告があったが、担当の先生方の事務量の負担は大変だと思う。卒業後も何年も返済しなければならない点が問題になっている。

教頭：奨学金は在学奨学金は教務が担当している。ミスが許されないので複数の担当者によるダブルチェックで行ってもらっている。進路の予約奨学金の担当者も毎年変わっており、どうしても新しく来られた先生にお願いすることになってしまう。

委員：学校新聞は府立学校校長時代に大いに参考にさせてもらっていた。これからも続けてほしい。地域版も出しているのか。

教頭：毎年発行している。

委員：授業アンケートについて、学校経営計画の進捗状況の評価指標とした基準は本校独自のものか。

教頭：本校独自のものである。平均値が 8 割を超えるという基準とした。

委員：保護者への授業公開はあるのか。

教頭：保護者対象は 1 学期に行った。120 名の保護者の方が来校した。

委員：初任者が指導教員以外の先生の授業を見る機会はあるのか。

事務局：なるべく見に行くようにしている。

委員：中学校の授業を見たことはあるのか。

校長：今月、地域の府立学校の合同新任研修で中学校の授業見学に行く予定である。

委員：部活動加入率増の秘訣は？加入率は学年進行とともに下がらないのか。

首席：2 年生まで続くとそのまま引退まで続く。最近はやめる生徒は少ない。やめてもほかの部に入る生徒もいる。

委員：学校経営計画の中期目標に書かれている「学力の向上」は、教員が主語になって

おり、教員の指導力の向上が目標のように思われる。1つだけ「自学自習力をつける」だけ生徒が主語になっている。自学自習力をつける取り組みに期待したい。ルーブリック、CanDo リストなどを活用して、生徒に自学自習力の評価をさせ、事前と事後の変化を見る。アンケート形式を記名式で行うと、統計的に時系列の変化を見ることができる。調査結果により、教員がどういう自学自習力を生徒は付けることができているか、できていないかを参考にすることができる。

教頭：アンケートをとるとしたらどのような項目があるか。

委員：たとえば、1日何時間ぐらい机に向かっているかなど。

委員：G Tテスト（学力到達度テスト）におけるアンケートで自己評価させている。大阪、東京など都市部の生徒は学習時間が入学してから下がる傾向にある。学年全体の目標として定めると上がっている学校は大阪ではほとんどない。1人1人を見ると上がっている生徒もいる。

教頭：昨年、前校長の提案で時間の使い方アンケートを行った。スマホの使用時間の多さに衝撃を受けたが、その後キャンペーンを行うと、学習時間の大きな伸びはなかったが、ヘビーユーザーのスマホ使用時間は少し減った。

委員：短い時間でも効果的に学習できる生徒はよいが、部活動等で忙しく学力が下がってしまう生徒がいるので、勉強のしかたを教えて、自律的な学習者になるよう育てなければならない

事務長：予算、経費の管理をしている行政の立場から、公金・私費の使い分けが年々厳しくなっており、お金を使いづらい状況がある。安全面第一に施設等に使った後、備品、消耗品等の購入に充てている。

#### (4) 平成 29 年度使用教科書採択報告

選定の公平性・客観性を意識し、各教科で教科書を選定し、9月17日付で採択された。教科書選定・採択一覧表と選定理由書を提示して報告した。

#### 6 連絡等

- ・保護者からの意見書の提出がなかった。
- ・次回は2月上旬予定。2月10日（金）を開催予定日として設定。委員が4名以上出席できない場合は再度調整したい。協議題は学校経営計画に基づく達成状況の自己評価、学校教育自己診断結果報告、授業アンケート報告、次年度学校経営計画案など。